

2017年度 学校自己評価シート(浦和実業学園高等学校)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の伸長(授業の充実と家庭学習の習慣化、能動的な学習態度の涵養) 2 德育の推進(基本的生活習慣の確立と人格の陶冶) 3 自己実現のための進路指導の充実(進路実践の向上・高大連携への対応) 4 実学の実践(学校行事の充実と地域社会との連携) 5 生徒募集活動の充実(志願者数の増加と募集定員の確保)
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	懇話会委員 4名 学校関係者 5名
-----	----------------------

年度目標		学校自己評価		学校関係者評価		
番号	現状と課題	具体的方策	達成状況	達成度		
1	<p>○本校は大規模校であり、普通科5コース、商業科2コースには様々な学力層の生徒がいる。生徒の授業理解度には個人差があることを常に意識し、一律の学習指導を戒め、生徒一人ひとりの学力を伸ばす指導法を確立することが肝要である。</p> <p>○高大接続改革の方向性が示された。次期学習指導要領の変更点を踏まえ、これからの社会が求めるアクティブラーナーを育成すべく授業を改革・実践する必要がある。</p> <p>○多くの生徒は家庭学習の絶対量が不足している。適切な量と質の課題を継続的に与え、家庭学習の習慣化を図る必要がある。</p> <p>○早朝や放課後、学校に残って勉強する生徒のために、5号館に自習室を設置した。学校規模からすればまだ十分とは言いがたいが、有意義に活用させたい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①6年前から校内で実施している夏季新任研修を今後も引き続き行い、教員の指導力向上に資する。 ②毎夏「予備校主催の夏季教員セミナー」に教員を派遣しているが、今後は一人でも多くの教員が研修に参加するためにも、校内に講師を招き、学校がリクエストしたテーマに沿った研修会を開くスタイルに変更する。対象は全員ではなく、教科に分かれて実施すれば人数も多すぎず、ワークショップやディスカッションも盛り上がると思われる。 ③朝の英単語等の小テストを継続的に実施し、基礎学力向上の一助とする。 ④家庭学習の習慣化を定着させるべく、適切に課題を与え、家庭学習状況を「Classi」に入力するなどして担当が把握できるようにする。 ⑤授業アンケートを実施し、生徒理解を深めると共に、教科指導のスキルアップに役立てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①校内夏季新任研修を、1日目「生徒指導/部活動指導」、2日目「進路指導」、3日目「学級経営」と分野別に設定し、経験豊富な本校教員が講師を務めた。連日、若手教員が数多く参加し、活発な議論が展開された。 ②8月3日、4日、教員対象の「サマーセミナー(任意参加)」を実施した。初日には本校で春季小論文講座を担当する大槻岳氏をお招きし、小論文指導の現状についてお話をいただいた。国語科教員を中心に約30名が参加した。2日目には、栄光セミナーの光延栄治氏をお招きし、授業力・学力アップに向けて何をすべきかお話をいただいた。約40名の教員が参加した。また、8月18日・21日の2日間「夏季教員研修(全員参加)」を実施した。アクティブラーニングの第一人者である越谷市立平方中学校長大西久雄氏、2020年高大接続改革の識者石川一郎氏をそれぞれお招きし、講演をしていただいた。 ③朝SHR時に英語を中心とした小テストを実施している。英語を苦手とする生徒が多い中、英語基礎力を養う一助になるべく今後も継続していく。 ④昨年度、現普通科2年より試行的に導入した「Classi」を今年度より普通科1年でも導入した。学習記録、生徒カテ、WEB配信配信など様々な機能が備わっており、積極的に活用し、進路指導のより一層の充実を図りたい。また今後は「ポッドキャスト」作成もつなげていきたい。 ⑤授業アンケートを実施した。集計結果をふまえ、今後役に立てていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●毎夏、期末考査期間の午後を使って校内新任研修を実施している。同じ職場の教員が本校の実施に即した話をするため、説得力があり好評である。今後も引き続き実施していきたい。 ●自己研修の場として研修に励むことは教員にとって極めて重要な務めである。教員の自覚を促し、スキルアップを図るために校内で可能な限り研修の機会を設けることが肝要である。 ●次年度より今年で「Classi」を導入する。朝学習だけでなく、家庭学習の課題提供や実施状況の確認など、積極的に活用したい。 ●朝学習の効果を高めるために、これまでの暗記確認のための小テストだけでなく、朝読書や文章表現など、思考力を養うための学習も検討する。 ●授業アンケートは、2020年問題をふま既に「アクティブラーニング」に関する項目は加えてあるが、今後の動向に注目しながら必要に応じて項目内容の変更をしていきたい。 	<p><授業・ICT></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンやタブレットなどのICT機器の操作方法などについては保護者はよく理解できない面もあるので、使い方のについては学校主体でお願いしたい。 ●一貫部4年でも中学校から引き続きイマージョン教育が実施され、効果が期待できる。5・6年でも実施されることが理想的。 ●4号館の中学校教室にプロジェクターが設置されたことは喜ばしい。一貫部高校の教室にも設置されることを望む。→2018年設置予定。
2	<p>○通学路のルールやマナー(自転車通学を含む)については現状不十分な点も見られるため、生徒の交通安全に対する意識を向上させるべく更なる指導の徹底を図る必要がある。</p> <p>○社会性と公共心を育み、社会の一員としての自覚を促すため、本校周辺の清掃活動に積極的に取り組み、地域の美化に貢献することは教育上大きな意義がある。また挨拶の励みや身だしなみ指導を通して高校生としての品格や自覚を高めさせ、遅刻をした生徒に対しては生活習慣を改善させるための指導を恒常的に行う必要がある。</p> <p>○問題行動の未然防止と早期発見のための教育的組織の充実が急がれる。</p> <p>○心身の鍛錬のため、部活動に積極的に参加させ、加入率の向上を図る必要がある。</p> <p>○重大事件につながる可能性の高い薬物乱用やSNS(出会い系、詐欺他)については、特別の指導(関係機関からの講師派遣等)が必要である。また、安いで安全な教育環境を確保するため、「いじめ」と「体罰」に関するアンケートを定期的に実施する必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①登下校時の生徒の安全確保とマナー向上のため、登校時8ヶ所・下校時5ヶ所に教員を配置した指導を継続的に行うと共にホームルームや集会においても注意喚起する。また、各種関係機関の協力を得て交通事故の防止に努め、合わせて啓発的指導を行う。 ②德育としての奉仕活動(通学路清掃)を年間全クラスに割振り、継続的に実施する。また、オアシスの精神に基づいた挨拶の励行など、ホームルームや部活動、生徒会活動等を通じて実践させる。 ③基本的生活習慣を確立させるため、毎朝校門において遅刻した生徒に対して指導を行うと共に、常習的な遅刻者の家庭には連絡をして協力を得る。 ④問題行動についてはその防止と早期発見の観点から、昼休みを中心に校内巡回指導を学年別に割振り、実施する。 ⑤生徒に対し、積極的に部活動に参加するよう呼びかけ、協調性・忍耐力・責任感など健全な心身の育成を図る。 ⑥薬物乱用防止とSNSについて、外部講師を招いた全校指導を行う。また、「いじめアンケート(6月・11月)」と「体罰に関するアンケート(9月・2月)」を定期的に実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①登下校の交通ルールとマナー向上のため、登校時8ヶ所、下校時5ヶ所に職員を配置し、通学路指導を継続的に実施している。また自転車通学者に対しては雨天時の雨合羽着用指導、スマートフォン・音楽機器等による「ながら運転」に対する指導を継続的に実行している。 ②通学路を中心とした地域の清掃活動を年間を通じてインター外部に加えて全校70クラスを割り振り、実施している。また父母の会役員の方々にもご協力をいただいた。 ③遅刻者に対する指導を毎朝校門付近において実施し、基本的生活習慣の改善を促している。 ④昼休みを中心に校内巡回指導を学年別に実施し、問題行動の未然防止に努めている。 ⑤新入生に対しては特に部活動への加入を促し、加入率はここ数年、全学年平均で60%を上回っている。 ⑥夏休休業直前の7月に埼玉県保健医療部業務課の協力の下、薬物乱用防止のための全体指導を実施した。また「いじめに関するアンケート」を6月・12月に、「体罰に関するアンケート」を9月・2月(予定)のそれぞれ年間2回行い、実態把握と問題の未然防止に努めている。 ⑦また市や警察署が主催する各種キャンペーン(サイバーセキュリティセミナー・秋の交通安全運動・高校生と幼児児のふれあい事業・未成年者喫煙防止キャンペーン・未成年者飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン・年賀状投函式など)に参加し、関係機関より評価されている。 ⑧頭髮・服装等の身だしなみ指導を学年やホームルームを単位として継続的に実行している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の登下校時のマナー向上のため、今後も各所に教員を配置し指導を行うが、より効果的な指導の在り方について引き続き考察・研究を続けていく必要がある。 ●基本的生活習慣の確立と遅刻防止のための効果的な指導を学年・HRにおいても推進していく必要がある。 ●厚生・安全指導係を中心とした安全教育の結果、自転車通学者の違反行為は一定限度の改善が見られるが、駐輪場の整理整頓については未だ指導の余地が少なからず残している。 ●年間を通じて、全クラスによる通学路の清掃活動を実施しているが、地域貢献の観点からも引き続き積極的に取り組むべきである。 ●交通安全・選挙セミナー・クイズ・サイバーセキュリティセミナー・未成年飲酒・喫煙防止キャンペーンなど警察・行政主催の各種キャンペーンへの参加は教育的効果が高い。今後も可能な限り、積極的にこうした機会を活用したい。 ●頭髮・服装等の整容指導をより丁寧に行い、併せて薬物乱用・いじめ・体罰・各種ハラスメント行為防止のための指導・アンケート等を定期的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育着を現行の素材から中学校の体育着と同じ材質(ドライタイ)に変更するのは構わない。 <行事> ●文化祭の様子で、一部の女子生徒の化粧が気になった。子どもからは生徒によって教員の厳しさが異なる、という声があがっている。 ●ハワイ短期留学は帰国した子どもからの話では本当に楽しんでいる事実があった。保護者としては、是非現地での写真やface bookなどのSNSを使って、定期的に発信してほしい。 →既にHPでは毎日更新中。 ●上野松坂屋での商業実習は自分たちの頃も多くのことを学べる良い機会だったことを覚えている。今後も続けてほしい。
3	<p>○2016年度卒業生(2017年3月卒業)の大学進学状況は希望達成率でみると80.4%と、前年度よりダウンしている。その要因としては、推薦入試受験者の減少があげられる。本校は、難関大学から中堅レベルまで非常に多くの指定校推薦枠をいただいているが、学校の方針として、推薦・AO入試で早期に進路を決定しようせず、本当に入学したい大学に挑戦させる指導を行っている。その結果、目標校を高く設定して一般受験に挑む者が増えた。しかし、昨年度の一般入試は大学側も合格者数を絞り込んだため、勢い苦戦を強いられる者が少なくなかった。推薦が一般かの見極めは難しいが、いずれにしても学力を確実に身につけることは絶対条件と言える。</p> <p>○塾や予備校に通わずとも、学校での学習活動を地道にこなすことで着実に学力をつけ、志望校に合格している先輩が少なからずいる。各コースの習熟度に応じた授業の一層の充実を図ることはもちろん、適切な課題を与えて家庭学習の習慣化を促し、また、進学補習講座を積極的に受講させ、発展的な内容にもチャレンジさせるよう指導する必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①適切な時期に各学年で外部講師を招いて進路講演会を計画的に実施する。その際、AOや推薦入試で安易に進路を決めることのデメリットを話題の中に入れてもらう。また、大学見学会などのイベントを通じて生徒の進学意識を喚起すると同時に、二者・三者面談を通じて保護者にも理解を求める。 ②確固たる目的意識をもって専門学校に進学し、資格を取得して就職するといった進路は理想的だが、良い専門学校は概して厳しい指導をするため、中途半端な気持ちで進むとドロップアウトする。進路ガイダンスや面談を通じて生徒・保護者共々意志を確認する。 ③具体的な数値目標は、普通科(一貫コースを除く)で、国公立大10名、難関私大(早慶上理・GMARCH)30名、日東駒専100名の合格、商業科で、日商簿記二級10名、三級50名、その他の各種検定一級取得者を延べ50名とする。 ④課外活動を充実させる指導の一環として、放課後の進学補習講座や検定対策講座を積極的に受講するよう促す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①普通科では夏季休業期間を利用して大学見学会を実施した。【特進部】東京・埼玉(1年)、筑波・成蹊・國學院・昭和女子(2年)【選・進】武蔵・獨協・清泉女子・拓殖・大東文化・工学院・目白・城西・日本医療科学(2年)その他、3年生一般入試受験者を対象とした「入試システムガイダンス」を11月27日・28日・29日の三日間実施した。生徒に事前アンケートをとり、希望の多い大学(31大学)の入試担当者をお招きし、生徒に直接出願にあたってのアドバイスをしていただいた。二者面談、三者面談も適切な時期に実施している。また、2年生を対象とした「上級学校授業体験」が12月20日に予定されている。 ②推薦・AO入試で大学や専門学校への進学を早期に確定させた生徒を対象に、進学指導室主催のガイダンスを複数回実施している。 ③進学実績を向上させるためには、1年次からの学習の積み重ねが不可欠である。昨年度より普通科で導入しているClassiの機能を使って、生徒には家庭学習時間を毎日記録するよう指導している。導入2年目の現2年では徐々に成果が表れてきており、11月の進研模試では国語、日本史などの科目で成績上位者が前年比急増している。商業科では、日商簿記検定において6月に2級10名、3級13名が、11月に3級18名がそれぞれ合格した。 ④進学補習講座の申込状況は以下の通り。 【1年】<前期> 14講座 492名 <後期> 12講座 320名 【2年】<前期> 7講座 312名 <後期> 13講座 234名 【3年】<通年> 27講座 541名 <小論文> 607名 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季休業中の大学見学会は恒例行事として定着し、一定の評価を得ている。進路を考えるにあたって時期的にもちょうど良いので、継続したい。上級学校授業体験や入試システムガイダンスも同様である。 ●推薦やAOで入学した学生が大学の授業についていけなくなる例を時折耳にする。高校現場でできることは、入試が早期に終わった生徒に対して、大学から出されている課題はもちろん、英語や小論文、読書などを通じて、大学入学後も必要となる素養を身につけさせることである。 ●大願を成就させた生徒は例外なく早めに目標校を定め、強い意志をもって継続的に学習を積み重ねている。とは言え、まだまだ精神的に不安定な年頃なので、直接的な声かけはもちろん、「Classi」や「School Life」を活用してサポートすることも教員の大切な役割である。 ●進学補習の課題は、回を重ねるにしたがって徐々に受講者が減っていくことであろう。特に1年生は部活動が本格的になるとそちらを優先させる者も増える。講座担当者は出欠管理を徹底し、必要に応じて担任へ連絡するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> <部活動> ●運動部のユニフォームをスクールカラーで統一した方がアピール効果があるのではないかと。 ●部活動加入率のアップは生徒指導にもリソースがいると思う。運動部であれば校名の入ったユニフォームを着ることや学校の看板を背負っているという意識が生まれる。一人でも多くの生徒に部活動に入る指導をしてほしい。
4	<p>○各種の校外行事(オリエンテーションキャンプ、ハワイ短期留学、課題研究、進学セミナー、進路セミナー)を各学年において実施している。特に「総合的な学習」の一環として2学年を対象に行なうハワイ短期留学の英語学習や異文化体験などの国際理解プログラムは青年期の発達段階にある生徒にとって資することである。今後、更に効果をあげるための様々な取り組みの立案と期間中の参加者の健康と安全の確保について常に検討する必要がある。</p> <p>○文化祭や体育祭には大きな教育的効果がある。前年度の反省を企画に活かし、生徒の意見を取り入れつつ、より充実したものとするよう工夫していることが望まれる。特に文化祭における食品販売に偏った模擬店中心の運営については根本的な見直しが必要である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションキャンプにおいては規則の遵守、公德心、協調性を重視し、「便りの時間」、野外炊飯で利用した入間海岸の清掃活動など德育につながる活動を行う。 ②ハワイ短期留学では生徒の安全を最優先に考え、現地UHCと国際教育部との連絡を密にし、事前の指導(語学、異文化、安全、健康、生活、風紀等)の徹底を図る。 ③松坂屋上野店での課題研究(商業実習)はキャリア教育の観点からきめ細やかな指導と監督を心掛けると共に、松坂屋研修担当者の協力を得て望ましい職業観の育成と勤労意識の向上を図るものとする。 ④文化祭では各種部門においてクラス・団体が丸となり、より質の高い取り組みになるよう指導する。また、企画が食品販売に偏ることがないよう出店数を制限すると共に、保菌検査や手指の消毒、キッチングローブの装着等、衛生管理を徹底させる。 ⑤体育祭では、演技種目の工夫により生徒が一体となった躍動感と達成感を得られるよう指導する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①校外学園施設(静岡県南伊豆町みなみの荘)でのオリエンテーションキャンプでは集団生活の規律や協同精神の習得、またハイキングや野外炊飯などを通して自然に親しみと共に海岸の清掃など奉仕活動による公德心の涵養等の目標を概ね達成することができた。 ②ハワイ短期留学では異文化理解と語学研修を主たる目的として年間を通し、2クラスずつの12班編成で各班16日間のプログラムを実施している。実施に当たっては生徒の安全を第一に考え、事前指導を徹底すると共に引率担当者と実生及びクラス担任との連絡を密に行っていた。 ③松坂屋上野店の協力を得て商業科2年生情報進学コースを対象に夏季・冬季の2期に分けて課題研究(商業実習)をそれぞれ7日間わたるキャリア教育として実施した。期間中生徒は接客販売・伝票整理・包装・仕分け・配送等の業務を通じて実業教室では経験することのできない様々な職業体験をすることができた。 ④昨年度試行的に行なった浦和大学との連携プログラムを商業科2年生全員を対象に行い、福祉及び幼児・初等教育の学びに触れることで進路に関する意識をより深めることができた。 ⑤文化祭ではクラスや部活動の他、父母の会・緑友会を含む88団体が参加し、それぞれ展示・販売・ステージ発表等の取り組みに創意と工夫が見られた。また体育祭における生徒のモチベーションは高く、クラス及び生徒団体の団結が強められ、特に女子生徒による手具を用いた集団演技は出色の出来栄であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●進学・進路セミナー、オリエンテーションキャンプ等の校外宿泊行事や文化祭・体育祭などの取り組みは協働性・社会性・公德心など生徒の精神的な成長を考えると非常に意義が深い。教員はこうした機会を通して積極的に生徒と関わり、生徒理解を深める必要がある。 ●ハワイ短期留学を更に充実したものにすべくプログラムを継続的に検証し、より「アクティヴ」な学びとするよう工夫する必要がある。また実施に当たっては生徒の安全が第一であり、この点を踏まえた事前指導は非常に重要である。 ●課題研究(商業実習)における職業体験は生徒の進路選択や将来を見通す上でキャリア教育として大きな意義があるため、今後も継続して実施すべきである。 ●7月に2日間に渡って行った商業科2年生全員による浦和大学との高大接続プログラムは生徒の耳目を開き、非常に有意義であった。今後より内容を充実させ、生徒の進路選択に役立てていくべき取り組みである。 	<ul style="list-style-type: none"> <生活指導> ●遅刻、近隣からの苦情を減らすべく、大変かと思うが引き続き指導ください。 <生徒募集> ●中学校の適性検査型入試や英語入試が入学者増につながったというところで先生方の研究・努力を評価したい。小学校での英語は必修化されたので、英語イマージョンを積極的にPRして生徒募集につなげてほしい。
5	<p>○私立学校において生徒募集が存続の要であることは問うまでもない。そのことを全ての教員の共通理解とし、募集活動を行う必要がある。本校の教育方針は多くのの方々から支持され、昨年度は良好な結果を得ることができた。本年度も公立高校や他の私学の動向に注意を払い、定員確保に努めることが望まれる。</p> <p>○本校が主催する説明会と言うまでもなく、外部での説明会においてもさらに募集活動の成果が上がるような運営方法、内容について検討することが大切である。</p> <p>○募集に係る活動が形骸化することのないよう、常に新たな気持ちで取り組む必要がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①教員一人ひとりが主体的に広報活動に取り組むための事前の打ち合わせを綿密に行う。また、限られた予算を有効に活用するため、執行にあたっては内容と十分に検討を行う。 ②本校への興味・関心を高めるために、ウェブページの更新を心掛け、内容も分かりやすいものにしていく。 ③志願者数の増加を図るため、校内における説明会での応待を、より懇切丁寧に行うよう努め、円滑な運営を心掛ける。また、中学校主催の進路学習会、模擬授業に積極的に参加するとともに、中学校のPTAIによる上級学校見学の受け入れを継続的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①7月22日、23日に彩の国スーパーアリーナで実施された彩の国進学フェアには2日間で延べ59,884名の来場者があり、本校のブースにも多くの来場者が訪れ、パンフレットの配布数は7,550部であった。各中学校で行われる進路講演会や出前授業の依頼、2年生対象の上級学校訪問、中学校のPTA見学会などは増加傾向にあった。 ②ホームページのトピックスの更新は11月末現在、112回行い、教員だけでなく、保護者からの話題の提供を受けることがあった。 ③志願者数増加を目標に掲げ、夏季休業中に行う2回の説明会は今年度で4年目を迎えたが、年を追うごとに参加者は多く、7月が1,781名、8月が2,496名で、延べ4,277名が来校した。第7回(11月25日実施)を終えた時点で12,070名の来校者であった。平日の夕方に行うイベント説明会は今年で3年目となり、これまで12月に4回実施していたが、その内の1回を11月に行なったところ、205名の受験生、保護者が来校した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●塾主催の外部説明会では塾の各教室から講演を依頼されることも増えたため、丁寧な対応を心がけ、各根拠の広報活動に取り組んでいきたい。 ●入学者に関して商業科は昨年より大幅に増加した。普通科は全体として横ばいであったが、特進部は増加した。引き続き両科の魅力を広報し、生徒募集につなげていく。 ●ハワイ短期留学について、保護者から「子ども達の様子を知りたい」「受験生にもこのプログラムをもっとアピールすべき」との意見を多く頂戴している。これに応えるべくホームページの充実を図ることが急務である。 ●志願者数の増加は恒常的な目標である。その目標達成には出願の仕組み自体も時代に合わせたものに変更していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> <その他> ●中庭の屋根付き通路のつづきの植栽が曲がってしまっているため、柵のようなもので保護してはどうか。一層の役割も果たす腰掛を設置予定。